

I. 2022年度地域連携活動経費による活動報告

1. 松本大学・松本大学松商短期大学部「キッズプログラミング教室」

総合経営学部総合経営学科 室谷 心

(1)活動計画

地域の小中学生を対象としたプログラミング教室を開催する。本取り組みは、教室の運営を通して、地域の子供たちのプログラミングをはじめとする情報技術への関心を高め、将来は本地域においてソフトウェアやものづくりの分野で活躍する人材育成につながることを期待するものである。

本学の施設および松本市や安曇野市の学習施設にて、本学学生が子供たちにプログラミングを教える「キッズプログラミング教室」を開催し、プログラミング知識の普及と情報教育の底辺の拡大を目指すとともに、教育活動を通じて学生たち自身のコミュニケーション力やICT活用能力の向上を図る。

予定している教室の時期は次の通り。
「キッズプログラミング教室」

7月中旬 本学「ものづくりフェア」にて実施
「親子プログラミング教室」

10月中旬、12月中旬 安曇野市役所会議室にて実施

昨年度の実績はモノづくりフェア中止のために、安曇野市のみで延べ4日間であった。

各教室では10名～20名の参加者を募り、応募者数に応じて1日複数回開講する。また、教室の開催に合わせて様々なプログラム作品を展示し体験できる

ブースも設け、来場者にプログラミングやICT技術の魅力を伝える。

学生は、当日の活動に加えて、教材の開発並びに機器の定期的なメンテナンス(Windowsのアップデート作業)を行う。

(2)活動内容

安曇野市からの受託事業として、安曇野市役所4階会議室で10月22日・23日及び11月12日・13日の計4日間にわたって、安曇野市教育委員会「松大生と学ぶ親子プログラミング教室」を開催した。4日間、いずれも午前、午後それぞれ2クラス実施し参加者は4日間で124組の親子(子124人、親113人)であった。

総合経営学部室谷ゼミ3年生、松商短期大学部矢野口ゼミ2年生が、それぞれ担当クラスの教材開発(Scratchによるゲーム作成)と教室運営を行った。利用パソコンのメンテナンスやWi-Fi環境も含めた会場設営も学生たちが行った。

参加者のうちでは小学1年生が最も多く、約7割が小学3年生以下の児童たちであった。

(3)成果

いずれのクラスも、休憩なしの1時間半であったが飽きたりすることなく、全員がプログラムの作成を完了し、終了目標地点までの学修を終了できた。

終了後のアンケートによれば、講座内容は受講者に好評であった。





(4)共同活動者

小林俊一(総合経営学部総合経営学科)、矢野口聡(松商短期大学部 経営情報学科)

※プログラミング教室実施に向けた教材開発及び教室運営、学生の指導。



(5)成果の公表(活動発表・論文執筆等)

松本大学ホームページ「新着ニュース」欄に報告を掲載。

2. 長野県高等学校科学協会・松本大学 合同理科教育検討情報交換会

総合経営学部総合経営学科 室谷 心

(1)活動計画

長野県内の理科教員の研究会である長野県高等学校科学協会と本学の理科教育関連教員と合同で、授業改善検討情報交換会を年に2回程度本学を会場に開催する。

検討対象は小・中学校及び高等学校の理科教育の改善であり、本学学生の教育ではない。この授業改善検討情報交換会は今後定期的で開催していきたいと計画している。

(2)活動内容

新型コロナウイルス感染症感染防止対策で、年2回予定していたが年1回にし、高校生対象の「令和4年度 科学オリンピック養成講座」と合同での開催とした。

「令和4年度 科学オリンピック養成講座」は「本県のものづくり、イノベーションを支え、世界で活躍できる科学技術人材を育成するために、実力養成講座を実施し、自然科学等を学ぶことの面白さを伝え、各種科学コンテスト予選参加者を全県的に増やすとともに、予選・本選を勝ち抜いていくための実力を

養成する。」ことを目的としたもので、長野県教育委員会事務局学びの改革支援課主催のイベントである。物理オリンピック日本委員会委員の室谷が講師を務めた。Zoomで開催し、参加者は高校生4名、高等学校教員5名であった。

科学オリンピック養成講座終了後に開催予定であった、授業改善検討情報交換会は、科学オリンピック養成講座が長時間にわたったため、今回は見送りとなった。

(3)活動の成果

「全国物理コンテスト 物理チャレンジ」(通称物理オリンピック)の1次予選の理論問題の解説と、実験課題の狙いについて、昨年の問題や応募レポート例を題材に解説を行った。

終了後の生徒アンケートでは実験の解説が好評であった。また、高校の教員からの感想では、大会の開催時期、出題範囲と高校における学修の時期とのマッチングが悪いのではないかと意見が寄せられ、高校における学習過程の実際について、次回の養成講座での参考となるアドバイスを受けた。